

## 各教科の 教師が語る

# 新課程における、各教科での 生徒の主体性を育む指導とは

新課程で求められていることを教科指導に反映しながら、生徒の主体性を育んでいくためには、どのような授業、どのような課題の与え方などが求められるのだろうか。  
6教科それぞれに、担当教科での指導の変化、展望を聞いた。

## 国語

言語活動を通して、  
主体的な進路選択にもつながる  
多角的な視点を身に付けさせる

群馬県立太田女子高校

中野憲一

小説を題材に評論的な  
読解をグループ活動で行う

新課程の国語では、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の4技能のうち、「話すこと・聞くこと」が今まで以上に重視されており、討論や発表などを授業で行うことがより重要になると思います。生きる力の育成も引き続き大きな課題であ

り、評論や小説も作品の解釈だけでなく、とどまらず、そこで学んだものの見方や考え方が日常生活でどのように生かせるかを、生徒に意識させる必要があると感じています。

「話すこと・聞くこと」について、私は旧課程の時から、小説を評論的に読み取り、少人数で討論するグループ学習を授業で行ってきました。本校は女子校なので、話し好き、小

説好きという女子生徒の特徴を授業に生かそうと始めたものですが、新課程で重視されている言語活動と重なる部分がありました。

2012年度は3年生で『舞姫』をグループ学習の題材に取り上げました。主人公の豊太郎がその時々にとった行動が正しかったのかどうかを、「留学前後」「エリスとの出会い

前後」「相沢との再会後」の3つの時期に分けて、4人1組のグループで話し合わせ、その結果を発表させたのです。正否だけをテーマにするのと、「エリスがかわいそうだから、正しくない」などと主観的な考えで答えてしまうので、「功利主義」「道徳」「共同体的善」の3つの概念を示して正否の判断基準にさせまし

た。道徳的に見れば、愛していたエリスを捨てたのは悪いことだが、近代的なコミュニケーションや共同体的善の観点から考えると、立身出世を目指した豊太郎の行動が誤っているとはいえないなど、評論を読む時のように、小説を論理的・客観的に読んでいくのです。

『舞姫』のグループ学習には授業の7、8コマを費やしました。先入観を持たせないために詳しい作品解説はせず、グループごとに全文を音読して作品の概要を確認させ、3つの時期における豊太郎の行動をまとめさせました。次に、グループごとに調べ学習をして、豊太郎の行動の正否についてグループの考えを発表させました。最後に、発表内容を討

論する時間を、3つの時期について1時間ずつ設けました。

討論では、発表を聞いていたグループが矛盾点を見付けて質問。それに対して、発表したグループは根拠を示しながら自説の正しさを主張します。感傷に流されない論理的な思考力を養うと共に、多角的なものの方見方・考え方を身に付けさせることを狙いとしていました。



群馬県立太田女子高校

### 中野憲一 なかの・けんいち

教職歴18年。群馬県立沼田高校、群馬県立高崎高校を経て、現職。同校に赴任して4年目。

### 群馬県立太田女子高校

○1921（大正10）年開校／全日制、普通科、女子校／1学年約280人／2012年度入試合格実績（現浪計）は、国公立大が東北大、筑波大、群馬大、お茶の水女子大、東京医科歯科大、大阪大、国際教養大などに78人、私立大が青山学院大、上智大、東京理科大学、明治大、早稲田大などに延べ508人が合格。

## 教師にも議論を活性化させる コーデイネート力が必要

調べ学習では、コンピュータ室のインターネットを使ったり、図書室の文献に当たったりして、生徒は功利主義といった用語の意味や当時の時代背景などを調べていました。当時のヨーロッパへの日本人留学生の数まで調べ、前途有望な豊太郎が女性のために身をもち崩すのは国家の損失だと、歴史背景を踏まえた自説を展開するグループもありました。

11年度の2年生では、『こころ』を題材にして同様の授業を行いました。やはり知識も豊富で精神的にも大人になる3年生の方が、話し合いが深まっていました。

教師も作品の解釈だけではなく、討論の基準として示した概念や作品の時代背景などを知らなければ、生徒の質問に答えられません。生徒の意見をうまく拾い上げ、論点を整理しながら議論を活性化させるコーデイネート力を磨くことが必要です。一方、「書くこと」にも、討論の

要素を入れています。1年次では記述問題の解答を生徒間で見せ合い、内容が良いかどうか話し合わせました。その際、分からない生徒は他の生徒に「答え」を聞くのではなく、「考え方」を聞くようにさせています。1年次では、自分と違う考えに触れさせることで、多様なものの方見方・考え方を学ばせ、2・3年次では、1年次に身に付けたさまざまな価値基準を土台にして、自分1人で考えさせることが大切だと思っています。

## 「予習テスト」導入で 家庭学習の習慣化を図る

古典は知識の比重が高い科目ですが、工夫次第で現代文と同じような言語活動を行うのは可能だと思えます。11年度は『方丈記』と福岡伸一の『動的平衡』の読み比べをさせ、変化と不変の関係について、グループで話し合いをさせました。

ただ、古典は知識もしっかり身に付けさせる必要があります。古文や漢文の内容を読解できなければ、何が書いてあるのか分からず、読み比

べなども出来ないからです。私は、古文の文法や漢文の句法などを1年次の前半にまとめて教えています。最初は活用も何も分からないため丁寧に教えますが、その後は授業であまり細かく説明しません。文法などの知識事項は、予習や復習を通して身に付けてほしいと思っています。

そのため、家庭学習は古典の予習と復習が中心になります。思考力が問われる現代文は、学んだ知識やスキルを活用してその場で読み取ったり考えたりすることが大切と考え、宿題は基本的に課していません。また、家庭学習を有効に機能させようと、12年度に、予習した内容を確認する「予習テスト」を始めました。以前から知識の定着を確認する復習テストを行ってききましたが、予習テストなら学習の役立ち度が高く感じられて達成感が得られやすく、主体的に家庭学習に取り組むようになるのではないかと期待しています。文法の説明などを予習テストの解説で詳しく行うことで、本文を読む時は読解に集中させたり、言語活動に充

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

てたり出来るのも利点です。

また、新課程では他教科の学習量が多くなるので、課題が過重にならないよう、教科間での調整が必要でしょう。ただし、「量」を調整するのではなく、「質」もすり合わせるべきではないでしょうか。例えば、国語で古語を暗記させる宿題を出す一方、他教科で論理的思考力を問うような課題を出すと、生徒は暗記中心の課題を苦痛に感じるでしょうが、各教科が思考力を問う内容の課題でそろえれば、生徒も納得して取り組むのではないのでしょうか。「質」にも着目して各教科が歩調を合わせること、生徒が主体的に家庭学習に取り組むようになると思います。

### 多角的な視点を持つことが 主体的な進路選択につながる

生徒には、国語の学習を通して、世の中にはいろいろな価値基準・判断基準があることを知ってほしいと思います。物事を判断するための物差しが多ければ多いほど、自分の考えの幅が広がり、多様な価値観を受け入れることも出来るようになります。そうした経験を積むことで、人

生の岐路に立った時、多角的な視点から進むべき道を選択できるのではないのでしょうか。また、グローバル社会の中で異質な価値観に出合った

## 地理歴史科 公民科

### 世界史と社会とのつながりを 意識させることで、 主体的な学習態度を引き出す

鹿児島県立甲南高校

黒木 誠

### 論述指導は大学入試の力と 生きる力の育成につながる

新課程で最も注目しているのは、言語活動の充実です。新課程では、思考力・判断力・表現力の育成が重視されているのは周知の通りですが、私が担当する世界史には、単元ごとに課題を探究するテーマが入り、そこで論述や討論などの学習活動を重視することが明示されました。大学入試を考慮すると、地理歴史・公民で取り入れやすいのは論述でしょう。国立難関大を目指す生徒が多い本校では、個別学力試験に

時も戸惑わずに済むかもしれない。新課程の言語活動の充実が、そうした「生きる力」を高める契機になることを期待しています。

レベルの高い論述力が求められるため、今までも3年生の6月から放課後講座を週1回行い、過去問を使った論述指導を行ってきました。

難関大の論述問題を解くためには、さまざまな情報や多様な価値観を総合し、大局的・客観的に俯瞰しながら考えなければなりません。豊富な知識だけでなく、論理的な思考力や高度な表現力が必要とされます。ですから、難しい論述問題に取り組ませることで、生徒は知識の習得が不可欠であると共に、思考力や表現力を鍛えないといけないと気付きます。そうした気付きが、「もつ

と分かるようになりたい」「出来るようになりたい」という意欲を引き出すのではないのでしょうか。

また、論述問題は、時間的・空間的な範囲が広い内容であることが多く、それに対応できる力を付ける学習は、大局的な見地から歴史を俯瞰する必要があります。これからの社会を生き抜く力を身に付けるためにも、世界史の論述指導は重要な意味を持つと考えています。

### 表現力向上のために 要約指導の充実も視野に

放課後講座では、3000字程度の論述を黒板に書かせ、生徒と一緒に解答を確認していきます。受講者数が少ないこともあり、生徒から「そこは捉え方が違うのではないか」という意見が出るなど、活発なやりとりが交わされることもあります。しっかりとした文章を書かせるためには、知識・技能を身に付けるだけでなく、論理的に表現する訓練も大切です。生徒が書いた論述には、歴史用語を多用していても、論点が整理されていないために、言いたいこ

とが分からない答案が少なくありません。一方、用語を最低限しか使っていないくても、論点がすつと頭に入ってくる答案もあります。それはおそらく、世界史の知識量の違いではなく、表現力の違いだと考えます。高度な論述力を身に付けるためには、国語の授業で行うような要約の指導も必要だと思います。国語や英語の取り組みを参考にするなど、



鹿兒島県立甲南高校

黒木 誠くろき まこと

教職歴23年。鹿兒島県立鹿兒島中央高校、鹿兒島県立川内高校などを経て現職。同校に赴任して10年目。

## 鹿兒島県立甲南高校

○1949（昭和24）年開校／全日制、普通科、共学  
／1学年約320人／2012年度入試合格実績 現  
浪計は、国公立大が北海道大、東北大、東京大、一  
橋大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大、鹿兒島大  
などに271人、私立大が上智大、早稲田大、同志社大、  
立命館大、西南学院大などに延べ1993人が合格。

教師が教科の枠を越えて指導法を学ぶ必要があるでしょう。

また、論述を授業で生徒全員に取り組ませるには、時間的な制約もあるので工夫が必要です。「○○法の説明をせよ」というような歴史用語の説明から入り、徐々に書く量を増やしていくとよいと考えています。

言語活動の前提には  
豊富な知識・技能が必要

論述や討論などの言語活動を行うためには、前提となる知識・技能が身に付いていなければ、議論は成り立ちません。いくら文章力があっても、十分な知識がなければ論述は出来ないでしょう。知識や技能をしっかりと教えることは、言語活動を充実させるための土台にもなることを忘れてはならないと思います。

他教科も同様かと思いますが、新課程では知識事項の習得や定着を課題に担わせる部分が増えてきます。家庭学習習慣は今以上に重要になるため、学年全体で入学時から徹底して指導することが大切になるでしょう。

う。私は知識を習得させるために、穴埋め式の予習プリントを配布しています。復習としては、市販の教材を使い、一問一答式の10分間の小テストを行っています。新課程では、予習・復習についても言語活動的な要素を取り入れて、言葉の説明などの短い文章を書かせるように意識していくつもりです。

世界史と社会との  
つながりを意識させる

新課程では、社会的な見方や考え方の成長を一層重視することも打ち出されています。世界史を遠い外国の昔話のように捉える生徒もいますが、過去があるからこそ現在があり、世界史で扱うさまざまな出来事や有名無名の人々の活動は、現代を生きる私たちにもさまざまな示唆を与えてくれます。現代社会とのつながりを意識させることも、生徒の主体的な学習態度を引き出すポイントの1つになるでしょう。

例えば、第1次世界大戦後、先進国が閉鎖的になり、貿易政策は保護

主義的な色彩が強くなります。そうした状況と、T P P（\*1）で揺れる今の日本の通商政策を交えて語ることによって、世界史が今の日本と無関係でないと感じられるようになります。

2012年度から週1回、生徒に配布している「世界史通信」も、世界史と社会とのつながりを意識させるために始めたものです。「パレスチナはなぜもめる？」「ハロウィンって何？」など、時期に合った話題や私の体験などを軽い読み物にしたプリントです。授業で関連事項が出てきた時に、「世界史通信で出てきた話題だね」と生徒に思い出させながら授業を進めています。

このように、自分たちが学んでいることと社会とのつながりを意識した時、生徒は社会貢献や将来の自分に思いをはせ、主体的に学ぶようになるのではないのでしょうか。私たち教師も、自身の哲学や世界観を絶えず生徒に語り掛け、力強く社会へ歩み出す勇気を生徒に与えなくてはならないと思います。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

\*1 環太平洋経済連携協定

## 数学

# 課題学習やデータの分析などで 身近なテーマを取り上げ、 数学への興味を喚起

大阪府・私立大阪学芸中等教育学校

良本完爾りょうもんとくあんじ

### 社会で求められる 数学的な素養

社会では、理数力を身に付けた人材への期待が高まっています。企業で働いている方と話すとき、コミュニケーション力や課題発見力、課題解決力などに加えて、論理的思考力が求められているとよく聞きます。これは、理系分野の職業に限ったことではありません。自社の商品・サービスの必要性を論理的に説明できなければ商談を成立させることは出来ませんし、日常生活でも論理的思考力が必要とされる場面はいくらでもあります。文系学部に進学した卒業生からは、「高校時代に数学をもっと勉強しておけばよかった」「入試科目にはなかったのに、大学の勉強では数学ばかりを使う」という話を

よく聞きます。就職試験で数学のテストを課す企業もあります。そうした話を聞くと、生きていく上で数学が果たす役割は、これまで以上に大きくなっていくと感ずるのです。

新課程は、そうした社会が求める力に応じた内容になっていると思います。私が特に注目するのは、「数学Ⅰ」に加えられた「データの分析」です。高校までの数学では、基本的に正解があり、そこにたどり着く方法を考えるのが学習の中心です。しかし、社会には正解が1つとは限らない問題ばかりです。そうした中で自分なりの解決法を見いだすには、新聞や書籍などにある情報をうのみにせず、複眼的な思考で物事の本質を見極める力が必要です。多様なものの見方を訓練する上でも、「データの分析」の学習は有効だと考えます。

### 進路指導を兼ねた

### 「データの分析」の授業を实践

2012年度に、私は新課程先行実施の1年生を担当しました。新出分野の「データの分析」では、生徒にとって身近な題材を用いて教えるのがよいと考え、1年前の3年生の定期考査の得点とセンター試験の得点の散布図を示し、そこから何が言えるのかを考察させました。

本当は生徒同士で話し合いをさせ、「定期考査の得点とセンター試験の得点には正の相関がある。つまり、定期考査の得点が高ければセンター試験の得点が高い」と導き出させようとしたのですが、時間的に厳しかったので、複数の選択肢を用意し、どれが適切かを生徒に問い掛けました。定期考査で頑張っている生徒はセンター試験でも良い成績を残すことは、これまでも繰り返し生徒に伝えてきました。今回、その裏付けとなるデータを見せることで、毎日の授業が何よりも大切なのだ、生徒は改めて実感したようです。

今回は進路指導に結びつくデータを取り上げましたが、生徒が関心を

示す内容であれば何でもよいと思います。新聞やインターネットにさまざまなデータがあるので、題材探しはそれほど難しくないでしょう。地理歴史科や公民科、理科の先生にデータ提供をお願いするなど、教科間での連携も図りたいと考えています。教師自身が常にアンテナを張り、生徒の関心を刺激する題材を見付けることが大事だと思っています。

### 課題学習で状況に応じた 柔軟性を養う

新課程でもう1つ、私が注目しているのは、「数学Ⅰ」と「数学A」に位置付けられた「課題学習」です。それぞれの科目で学習した内容を相互に関連させて、生活とのかかわりや発展的内容を扱うのが狙いですが、これも使い方次第で生徒の関心を高め、主体的な学習態度を養うことに効果があると期待しています。

具体的には、数学的な課題を自ら発見、解決していく過程を授業に取り入れたいと考えています。生徒は与えられた問題を解くことには慣れていますが、自分で数学的な課題を見付けて、その結果を考察するとい

う経験はほとんどありません。πは本当に3・14なのかどうかを考えさせるなど、当たり前と思っていることを改めて考えさせる課題にも、生徒に挑戦させたいと思っています。

また、数学が苦手な生徒には、経済学の問題を出すのもよいかもしれませんが、文系でも数学が必要なことが分かり、主体的に学習に取り組む意欲を高められるはずです。



大阪府・私立大阪学芸中等教育学校  
**良本完爾** しょうもと・かんじ  
教職歴・同校赴任歴共に14年。

### 大阪府・私立大阪学芸中等教育学校

◎1996(平成8)年開校/全日制/普通科、共学  
/1学年約130人/2012年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、北海道大、東京大、東京工業大、京都大、大阪大、神戸大などに64人、私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西学院大などに延べ300人が合格。

### 時間的な制約を いかに克服すべきか

新課程では扱う内容が増え、これまで以上に時間の制約が厳しくなるでしょう。課題学習で生徒が試行錯誤しながら考えたり、生徒同士が協同して課題に取り組んだりするためには、それなりの時間が必要です。

一方、教師には生徒の進路実現を果たすという役割もあります。「データの分析」や課題学習がどのように入試に反映されるか分からない状況で、活動に多くの時間を割くのは抵抗がある先生もいると思います。新課程の理念を実現するためには、時間的な制約をどのように克服していくのかを考える必要があります。

その方法の1つに、デジタル機器の活用が考えられます。例えば、課題学習で「10本のくじのうち3本に当たりがあり、10人が1本ずつ引くと、最後の人が当たる確率はどのくらいか」という問題を出します。「何番目に引いても当たる確率は10分の3」が正解ですが、生徒にしてみる

と、当たりは最初の方に出る可能性が高いから、最後に引く人が当たる確率はもつと低くなると考えやすいのです。実際にくじを引いてみれば、10分の3に近付いていくと分かれますが、それを実感するまでには多くの時間を要します。そこでデジタル機器の出番です。表計算ソフトを使えば、パソコン上で何度も試行できるため時間を節約でき、生徒の納得度も高まります。

### 大学入学後も伸びる 生徒を育てたい

これまでの進路指導の多くが、とすれば大学に入れることだけを目的としていました。その結果、大学を中退する、大学卒業後も就職できないといった弊害があったのも事実です。大学に入れるだけ入れて、「その先は自分の力で何とかしろ」というのは、あまりに無責任です。大学入学後も伸びる生徒を育てるのが教師の使命であり、新課程はそうした指導へと転換するチャンスです。ただし、それは、教師一人ひとり

れだけ意識して取り組むかにかかっていると思います。教師自身が意義を見いださなければ、新課程の狙いは実現できないでしょう。

高校までは、与えられた課題に取り組むだけでよかつたかもしれませんが、しかし、大学では、自分で課題を見つけて追究するスキルや姿勢が求められます。更に、生徒は答えさえ出せればそれでよく、解法をいくつも覚えるのは無意味だと思ふ傾向にあります。しかし、社会にある多くの課題は、解決への道筋が1つではありません。その場に最も適した選択肢を選ぶ力が必要です。数学の学習で、複数の解法を考え、適切な解法を選ぶ経験は、生きていく上でも役に立つと考えます。

社会に出たら、生徒は自分で判断して、前に進んでいかななくてはなりません。試行錯誤しながら課題を解決する、データをみて多角的に分析する。そうした経験の積み重ねが主体的に未来を切り拓く力を育てるといふ強い信念を持って、私も試行錯誤を重ねていきたいと思っています。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

## 理科

# 知識を体系的に習得させた上で 実験に取り組ませ、 生徒の主体性や創造性を引き出す

北海道札幌平岸高校  
山崎恒輝

## 2年次で内容を先取りし 3年次の実験を充実させる

新課程の理科で最もポイントとなるのは、基礎を付した科目2単位、基礎を付さない科目4単位を、どうバランスを取りながら教えるかにあると考えています。本校では、1年次は「化学基礎」が必修、2年次は「生物基礎」が必修で、「物理基礎」「地学基礎」のいずれかを選択、3年次は「物理」「化学」「生物」「地学」の選択としています。3年次では、いずれの科目も演習時間を十分確保するために、4単位の1単位を加えて計5単位とする予定です。

担当科目の物理は2013年度の2年次に始まりますが、現時点では次のような計画を立てています。2年次の「物理基礎」では、4単位の

「物理」の内容も体系的に取り入れながら、出来るだけ進度を速めて多くの内容を学ばせ、3年次の「物理」では可能な限り実験の時間を確保するというものです。例えば、力学の放物運動では、一直線上の運動だけではなく、4単位の「物理」で扱う平面上の動きも取り入れる、電気についても深く掘り下げるといいうように、2年次で先取りするのです。

2年次に実験を行い、関心を喚起する方法もありますが、これまでの経験から、低学年で実験をしても生徒の意欲は必ずしも高まらないと感じています。教科書の内容を教えた後すぐに実験に取り組ませても、生徒は教師の言う通りに手を動かすだけで、「やらされている」と思うようなのです。ところが、一度知識を体系的に吸収しておく、どうして

こういう実験結果が出たのかを考えたり、もつとこうしようと自分なりの工夫が出てきたりするなど、創造的に実験に取り組むようになりま

す。また、学年が上がれば、数学や化学を含めて幅広く知識が蓄積されてくることから、生徒同士で話し合う時より議論が深まります。3年次は受験を意識する学年であるため、入試に出題されるポイントも伝えながら実験をすれば、より集中して取り組むという利点もあります。

## 試行錯誤させることが 実験の醍醐味

2年次で学習した内容を3年次の実験を通して振り返ることで、「知らない」と恥ずかしいという意識を生徒に持たせることも、3年次に実験をする狙いの1つです。授業で学習したばかりの内容についての実験であれば、「知らなくても仕方がない」で済むかもしれませんが、3年次では「これは知っていないといかない」「出来て当たり前」という意識で臨むため、主体的に実験に取り組めるのではないのでしょうか。

生徒は、自分は実験方法を知って

いると思っけていても、いざ実験を行うと器具が使えないこともありま

す。自分には実践力が伴っていないと気付かせることも、学ぼうという意欲につながるでしょう。また、私は、実験時にはプリントで最低限の手順だけを示し、出来るだけ生徒に試行錯誤させるようにしています。

知識が豊富で学習意欲も高く、精神的にも成長する3年次は、理科への関心を深められる学年です。3年次の内容が厚くなる新課程は、生徒の主体性や創造性を引き出す大きなチャンスといえるでしょう。

## 授業進度や課題の内容への 細やかな配慮が必要

一方、2年次では、来るべき3年次に備えて十分な知識を身に付けさせる指導が重要です。それが、3年次での指導を左右するからです。そのためには、課題を多くし、半ば強制的に学習させる場面も必要になるでしょう。今の生徒はあまり主体的ではありませんが、教師が言うことには素直に取り組みます。私はその氣質を逆にとり、知識の定着を図るつもりです。例えば、「物理基礎」

では、復習を目的とした課題を増やそうと考えています。

ただし、一方的に教え込むだけでは、その厳しさに学習を諦めてしまう生徒が出てくるかもしれません。そうならないように、教師は絶えず生徒と対話をし、指導した内容を生徒が理解しているかどうかを確認しながら、注意深く授業を進める必要



北海道札幌平岸高校

**山崎恒輝** やまざき つねき

教職歴10年。北海道遠軽高校、北海道室蘭栄光高校を経て、現職。同校に赴任して1年目。

### 北海道札幌平岸高校

○1980(昭和55)年開校／全日制普通科普通コース・デザインアートコース、共学／1学年約320人／2012年度入試合格実績(現浪計)は、国公立大が小樽商科大、北見工業大、北海道大、室蘭工業大、横浜国立大、大阪大、釧路公立大、札幌市立大などに57人、私立大が北海学園大、青山学院大、上智大、明治大、早稲田大などに延べ273人が合格。

があると思います。私は「ついてきているか?」とこまめに声を掛け、生徒と一体感をつくるようにしていますが、そうした引っぱり方や興味の引き付け方は、教師の力量がものをいう場面でしょう。

また、成績上位層には、簡単には解けない難問を出し、意欲を喚起させるようにしています。例えば、演習問題では、成績中・下位層の生徒に取り組む範囲を明示した上で、成績上位層向けの発展問題を必ず盛り込んでいます。難易度に幅を持たせることも、本校のような学力層が幅広い学校には必要です。

授業進度にも留意すべきでしょう。3年次に実験時間を確保したいと思うあまりに、2年次で速く進み過ぎると、数学で関連分野を習っていないという事態が発生します。物理を学ぶ際には、数学で三角関数や微分・積分を学んでいることが望ましいので、数学科の教師と連携を密にして教える時期を考慮するなど、教科間で相乗効果が出るような授業計画を考えることが大切です。

### 社会貢献に対する意識が 学びの動機付けになる

生徒の理解を深めるために、授業でデジタル機器をもっと活用したいとも考えています。本校ではデジタル環境がそれほど整っていませんが、物理の波動分野では、実際に波が動いているところを見せたいと考え、旧課程でもプロジェクターを教室に持ち込んで生徒に波の動きを見せていました。また、演習問題の解説をする時には、生徒が解いている問題をスクリーンに映し、問題文の重要な箇所に線を引いたり、図の注目させたい部分を囲んだりしています。これは、生徒にとって大変分かりやすい指示であり、生徒の理解を深める上でとても大切なことです。

社会貢献意識を目覚めさせることで、学習意欲を喚起しやすいのも物理の特徴だと思います。例えば、原子の分野を学習することで、原子力発電の仕組みが分かれば、原発問題への関心が深まり、その解決のため原子力分野に進もうという生徒が

増えるかもしれません。新課程で核分裂や原子が必修となったのは、大きな意味があると思います。

原子力発電所に関するニュースを見聞きして、漠然と「核は怖い」と考えるだけでなく、何が危険なのか、何に気を付ける必要があるのかを考えさせることが大切です。震災の時も、原発の仕組みが分かっていたら、原子炉建屋の中で何が起きているのかを推測できたはずですが、社会貢献意識を高めたり、社会への視野を広げたりすることは、生徒の物理への学習意欲を高めると共に、生きる力を付けるための重要なポイントになるでしょう。

### 世の中の見方が変わることに 気付けさせたい

新課程の学習内容は、中・長期的に見ても、生徒の理科的な素養を高める上で大きな意味を持つと考えています。今後、多くの高校で、文理を問わず「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」の3科目を必修にするのではないのでしょうか。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです



特に文系の生徒には、物理を学ばせるべきだと思えます。放射線に限らず、音や光、電気など、身近な物理現象に対する理解を深めることで、世の中の見方が変わります。幅広い知識・考え方を身に付ければ、

世の中に流布する情報に惑わされず、主体的に物事を判断する力が身に付くことに気付く生徒も少なくないでしょう。新課程が、生徒が学ぶ大切さに気付くきっかけをもたらしてくれることを期待しています。

## 英語

# 授業を、「英語が使えた」という成功体験を積み重ねる コミュニケーションの場にする

愛知県立一宮高校 伊藤 智

## 新課程を先取りした 言語活動重視の授業に手応え

新課程の最大のポイントは、授業をいかに実践的なコミュニケーションの場に来るかにかかっていると考えます。従来の授業では、教師の一方的な説明が多く、生徒が英文を読むとしても、数人が音読する程度でした。しかし、新課程では、生徒が英語を話し、聞き、書き、読み、互いにかかわり合う機会を取り入れることが求められています。

私は2013年3月に卒業した生徒を3年間受け持ちましたが、1年から授業に言語活動を多く取り入れてきました。英作文を生徒同士で添削し合ったり、英語で自分の考えを伝え合ったりする活動です。英文の力が向上すると考えて取り入れていたのですが、意外だったのは、そうした活動を大学入試直前の3年生が実に楽しそうに取り組むことでした。自分のためになると分かれば、入試に直接関係しない活動でも生徒は積極的に取り組むのです。

そして、13年度のセンター試験では、多くの生徒が好成绩を上げました。言語活動重視の授業は受験学力の向上にも有効であり、この3年間の実践を通して、新課程における指導の方向性がおぼろげながらつかめたのではないかと感じました。

## 4 技能の全てを 取り入れた授業を实践

コミュニケーションというと、「聞くこと」「話すこと」を思い浮かべるかもしれませんが、私はそれに「読むこと」「書くこと」を加えた4技能の全てがコミュニケーションに必須のスキルだと捉えています。自分が「話す」、あるいは相手が話すことを「聞く」のはもちろん、文章を「書いて」伝えたり、人の書いた文章を「読んで」理解することもコミュニケーションです。英語によるコミュニケーション能力を高めることは、英語の4技能を総合的に高めることと同じだと思えます。

ですから、新課程での授業は、4技能をバランスよく学べるような構成にすることが重要だと考えます。本校では、1年次に「コミュニケーション英語I」「英語表現I」を履修させます。「英語表現I」で予定している授業の流れを簡単に説明します。

「英語表現I」では、教科書の1レッスンを基本的に2コマの授業で完結するように進めます。1コマ目は、レッスンで扱う文法事項を説明し、問題演習で定着を図ります。教師が説明する時間をなるべく短くし、問題演習の時間を長めに取るのがポイントとなります。次に、レッスン冒頭にある例文を、教科書を見ずにCDを聞き取って内容を把握させます。その上で、例文の黙読により内容を確認させ、音読を10回程させた後、最後に例文を全て暗記するように指示します。そして、復習を兼ねて、例文の暗唱と文法の問題演習を宿題にします。

2コマ目は、教科書の残りのセクションに取り組み、レッスンの締めくくりとなる自己表現活動（自由英作文）をさせます。宿題で下準備をしてきた自由英作文を仕上げ、おおよその内容をインプットしたら、その内容を他の生徒に口頭で伝えさせます。出来た自由英作文は、2週に1回、ALTの授業で1人ずつ暗唱

したものを発表させ、スピーキング力も鍛えたいと考えています。

## 家庭学習は 予習から復習重視へ

教科書は、4技能をバランスよく学べるものを選びました。ただ、英語表現の教科書なので、読む量がやや不足しています。副教材に使う文



## 伊藤 智 いくわ・さとし

愛知県立一宮高校  
教職歴23年。愛知県立鯉江高校(2007年廃校)、愛知県立一宮西高校を経て現職。同校に赴任して8年目。

### 愛知県立一宮高校

○1919(大正8)年開校/全日制・定時制・普通科・ファッション創造科・共学/1学年約360人/2012年度入試合格実績(現浪計)は、国公立大が北海道大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大などに257人、私立大は、慶應義塾大、早稲田大、南山大、同志社大、立命館大などに延べ579人が合格。

法の参考書はリーディングが充実したものを選び、教科書を補えるようにしました。

家庭学習は、予習中心から復習中心に転換させる予定です。予習を必須にすると、生徒によって理解度にばらつきが生じるため、かえって授業がしづらくなる懸念があるからです。復習なら、授業で一度学んだ内容なので生徒も取り組みやすく、もっと勉強してみようという意欲にも結び付くと考えています。

課題量は増やすつもりです。新課程の生徒は、中学時代にある程度の量をこなしてきたはずなので、多少負荷を与えてもついてこられると考えています。もちろん、課題を与えるだけで生徒が自律的に学習するとは限りません。私自身、3年生ならこれくらいの説明で分かるだろうと考え、簡単な指示しかしなかったところ、課題に全く取り組んでこなかった生徒が何人もいた経験があります。まず、課題の取り組み方を理解させ、計画表や提出期限を示すくらいの支援が必要でしょう。方法

さえ分かれば、自分なりに工夫する生徒が出てきます。主体性を育むには、まずは手を掛けることが今の生徒には必要だと思います。

それは、答えを全て教えるということではありません。例えば、入試前の英作文の添削指導では、文法や単語の間違いは指摘しますが、正解までは教えません。どのように直せばよいのかを生徒自身に考えさせることによって、知識もより定着し、自分で勉強しようという気持ちも引き出せるのです。

## 英語を使えたという 成功体験が主体性を育む

授業をコミュニケーションの場とするために、生徒が英語を使いやすい雰囲気をつくることも重要です。生徒が文法的に多少間違った英語を話したとしても、ある程度意味が通じれば良しとする。ペアワークで言葉が出てこない生徒には、机間指導をしながら必要な単語を少し教える。生徒が英語を使えるように支援したり意欲を高めたりする指導が、

教師には求められると思います。

自分の英語が相手に通じたという経験は、生徒にとって大きな自信になります。文法的に間違った英語を話した生徒にも、伝えたかったであろうことを教師が英語で質問し返して、答えられたら「OK」と言って座らせる。それだけでも、生徒は英語が通じたと思いい、うれしそうな顔をするものです。文法の間違いは後で指摘することが必要ですが、そのような小さな成功体験の積み重ねが、「もっと英語が出来るようになりたい」という前向きな気持ちを引き出し、主体的な学びに導くのではないのでしょうか。

そういう意味で、教師が授業改善にしっかり取り組みさえすれば、新課程は生徒の学習意欲を高め、主体的な学習態度を醸成する上で追い風になることでしょう。使える英語を授業で身に付けさせることが出来れば、大学入試にも対応できる。そうした考えを持つ教師が増えていけば、日本の英語教育も大きく変わっていくはずですよ。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです